

**有田八郎** 外交官・政治家。アジア派の中心メンバーとして、戦争突入回避に努め、<敗戦>後も、話題を提供した。

ありたはちろう

秩父事件・1884 = 新潟県佐渡郡相川町に、漢方医山本桂の男として誕生、政友会山本悌二郎の実弟。

幼時同町有田リンの養子となる。

**帝国憲法発布**1889 = 5歳 :

郡司千島探検1893 = **9歳** :

**日清戦争始**・1894 = 10歳 :

教科書疑獄・1902 = **18歳** :

早稲田中学,

**日露戦争終**・1905 = 21歳 :

第一高等学校を経て,

**伊藤博文暗殺**1909 = 25歳 : 東京帝国大学法科大学独法科卒業。外交官領事官試験合格。

韓国併合・1910 = 26歳 : 領事官補として奉天総領事館へ赴任。

大逆事件判決1911 = **27歳** :

**明治天皇没**・1912 = 28歳 : 以降、オタワ・ホノルルを歴任,

本格政党内閣1918 = 34歳 : 外務省事務官に転じ政務局第1課勤務。パリ講和全権委員随員として欧州に出張。平和会議事務処理の経験に鑑み、重光葵・堀内謙介・齋藤博らと外務省革新同志会を結成し、幹事役をつとめる。

大暴落・1920 = **36歳** :

**原敬首相暗殺**1921 = 37歳 :

以後シャム・米国・中国に在勤,

治安維持法・1925 = 41歳 : 天津総領事となる。

金融恐慌・1927 = 43歳 : \*独国在勤を命ぜられるが、赴任直前、田中義一首相兼任外相の下、外務省亜細亞局長に転官し、重光・谷正之らとともに、アジア派の中心メンバーとして、幣原喜重郎らの欧米派に対抗,

**世界恐慌**・1929 = **45歳** : 幣原外相となるが引き続き同局長として、対中国外交問題処理にあたる。

海軍軍縮条約1930 = 46歳 : オーストリア公使となり,

**満州事変**・1931 = 47歳 : 満州事変に際しては国際連盟対策のため芳沢理事に協力する。

五一五事件・1932 = 48歳 : 芳沢外相より一時帰朝を命ぜられ、犬養首相の懇請により、外務次官に就任。

国際連盟脱退1933 = 49歳 : 内田外相の時、白鳥情報部長の人事問題に関連して辞職。広田外相によりベルギー大使に任命され,

二二六事件・1936 = 52歳 : 駐華大使となる。日中国交調整の使命をもって赴任するが、\*二・二六事件後成立した広田内閣の広田兼任外相よりの帰朝命令に接す。帰途、関東軍板垣参謀長らの対外政策意見を聞き、外相に就任。

**日中戦争始**・1937 = 53歳 :

健保+総動員 1938 = **54歳** : 貴族院議員。宇垣外相のもとで外務省顧問となった後、\*第1次近衛内閣の外相に就任。平沼内閣に留任。板垣陸相らの主張するソ連のほか英仏をも対象とする日独伊三国同盟論に対し、対象はソ連に限るべきであると米内海相とともに主張し、ついに譲らなかつたことは特筆に値する。

大政翼賛会・1940 = 56歳 : 米内内閣の外相に就任、東亜新秩序の建設に努めるなど、日本の戦争突入への危機を避けるべく、主として軍の一部を中心とする強硬論を抑制しようと努力した。

**日米開戦**・1941 = 57歳 :

**敗戦**・1945 = 61歳 : \*終戦のため上奏文を執筆、米内海相・木戸内府に終戦の要を説く。

新憲法施行・1947 = **63歳** :

極東裁判決・1948 = 64歳 : 回顧録「人の目の塵を見る」,

戦後は、在外同胞引揚促進運動・憲法擁護運動などに尽力,

**独立回復**・1951 = 67歳 : 「どうする?日本の再軍備」,

メデー事件・1952 = 68歳 : 「私の見る再軍備」,

**55年体制始**・1955 = 71歳 : 社会党推薦で東京都知事選挙に立候補するが落選。

国連加盟・1956 = **72歳** :

美智子妃・1959 = 75歳 : **再び**, 社会党推薦で東京都知事選挙に立候補するが落選。回顧録「馬鹿八と人はいふ」

**安保闘争**・1960 = 76歳 :

ワイワイ病始・1961 = 77歳 : **三島由紀夫**著「宴のあと」をプライバシー侵害と告訴し,

「広田弘毅伝記行会」を主宰するが,

大学紛争始・1965 = **81歳** : **病死した**。

平凡社百科事典,